

部長	理事	課長	課員	担当者

議事録要旨

会議名	第1回芦原温泉駅まちづくりデザイン部会
日時	平成30年4月16日(月) 19:30~22:00
場所	あわら市役所101会議室
出席者	<p><部会員> 市民/笹原修之(部会長)、西田幸男、八木康史、高木めぐみ、森嗣一郎 福井工業大学/川島洋一(教授) 市職員/鳥山公裕、中辻雅浩、細川正樹、中島之裕、坂井真生</p> <p><事務局> 新幹線まちづくり課/永井課長、山本補佐、赤神主任 1-1 Architects/石川</p>
欠席者	名古屋工業大学大学院:伊藤孝紀(准教授) 市職員/竹内優美
内容	<p>【開会】 <u>事務局:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新年度となり、皆様におかれては、平成32年3月31日まで部会員として引き続きよろしくお願ひしたい。 ・芦原温泉駅周辺まちづくりプランについて、昨年度3月までに完成させる予定であったが、新幹線駅舎を嶺北地区の拠点施設としてその周辺も含めて機能性を強化・見直しすべく、策定を6月まで延期した。 <p>【部会長あいさつ】 <u>部会長:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2/15以来のデザイン部会となる。役所関係者はその後の経緯をよくご存知だと思いが、それ以外の方は前回から大きく変わったと感じ、困惑していることと思う。 ・市長が変わったことで変更、見直しが大きく加わっていると思われる。コンセプトやスローガンも変わっている。まずは、変更の経緯を一つ一つ説明いただきながら進めていければと思う。 ・6月議会で方向性を示すことを踏まえ、限られた時間ではあるが、皆さんの意見をまとめていければと思う。 ・本日は忌憚のないご意見をお願いしたい。 <p>【協議事項】 (1)芦原温泉駅周辺まちづくりプランについて <u>事務局:</u></p>

- ・日々市長協議の中で、資料の修正を繰り返している。本日の資料は最新版である。
- ・最終6月の策定までに随時デザイン部会を開催させていただきたく思う。
- ・昨年12月に議会に示した案と大きく異なる点は下記のとおり。
 - ・賑わい空間内のステージやチャレンジショップ、旗艦店のような店舗の記載を削除した。
 - ・お土産、直売の店舗も、在来線駅舎側に計画していたが、観光案内所を含めるようなかたちとなった。
 - ・自由通路の階段も、南西方向に延びていたものを、西側へ直線的に延ばす案としている。
 - ・階段下には240㎡ほどの、内部空間を想定している。その中の店舗Aとある箇所には、希望ではあるが、民間テナントを誘致できればと考えている。その隣には、駅利用者にも使いやすいトイレを配置している。
 - ・市道105号線に沿って、1階観光案内所、2階越前加賀展示館を配置している。
 - ・観光案内所については、お土産、カフェ、待合休憩所、展示スペース、荷物預かり、直売をまとめている。
 - ・先日、市長と一緒に黒部宇奈月温泉駅と新高岡駅を視察した。黒部宇奈月温泉駅に隣接して、黒部市地域観光ギャラリーという施設があり、2階には立山黒部ジオパークがあり、地域の魅力のPRスペースとなっている。市長はこういった施設が、人の滞留を生み、PRにも有効な施設だと感じており、越前加賀展示館として本日の資料に記載した。
 - ・観光案内所の横に記載のある展示室45㎡は、笹原部会長から提案のあった金津祭の山車の常設展示スペースとして記載した。
 - ・ピンク塗りの屋外屋根スペースは、大きな屋根があるが壁などは無い空間である。催事や軽トラ市など、場合に応じて自由に使える空間のイメージである。
 - ・計画に変わりはないが、ロータリーについても最新版を記載している。
 - ・aキューブ北の駐車場については、駐車場不足の声が寄せられていることから、複層化を検討している。
 - ・aキューブは、商工会が1つの建物でaキューブカフェを運営していたり、その他の4つの建物についてもイベントを行っているが、より利活用を図るよう継続検討が必要であるという認識である。
 - ・土地活用検討街区については、体験展示スペース、キッズスペース、飲食店などがあり、憩いの森の一角として計画していくという内容であったが、市長のご意向では、このエリアを新幹線開業までに開発するのではなく、開業の様子を見ながら開発も検討していくといった方針である。そのため図面では、現状の建物の記載に変更している。
 - ・まちづくりプランのコンセプトは「森とともに成長するまち」としていたが、植栽の維持管理が大変であることや、市内に自然がたくさんあるにも関わらず駅前に森を作る意義などを踏まえ、変更をした。現在は市長が政策の柱に掲げる「ときめき」ということばを入れて、TOKIM-EKIとしている。
 - ・商店街から竹田川に抜ける道については、新幹線開業後に検討を行うこととした。

したがって、資料には竹田川でのアクティビティの記載があるが、市長の優先度は低いようである。あくまで、賑わい空間の整備と駐車場の拡幅が最優先事項であるとのご認識のようである。

部会長：

- ・大きくは駅前ロータリー部分と駐車場の複層化の2つが決まらないことには、それ以外の部分を議論する余地がないという認識かと思う。
- ・屋内スペース 240 m²は、テーブルを出したりして、自由に使えるというイメージでよいか。

事務局：

- ・そのとおりである。ただし、この中で具体的に何をするかという議論はまだ内部ではできていない。
- ・自由通路部分の天井高さは地上 10m ほどになる想定。(建築的な調整はいろいろとあるとは思うが、) 屋内空間の天井高さを同じ高さでつくれば、開放的な空間になると思われる。
- ・屋内部分は冷暖房ありで想定している。
- ・以前までの案に入っていたいくつかの飲食店については、商店街でその機能を展開したいと市長は考えている。ただし、キッチンカーなど、ビジネスチャンスがあるのであれば、そういったものも歓迎したい意向である。
- ・フリーマーケットや宵市のように、この場所を自由に使えることを PR したい。その上で必要な設備(給排水、電気等)があればご意見いただきたく思う。

部会員：

- ・駅舎 B 案との調和を図っていくという認識でよいか。

事務局：

- ・そのように考えている。設計については今後の検討事項と考えている。本日は、機能やソフトなどについて議論を進めて行きたいと考えている。

部会長：

- ・バス切符売場についてはこの図面のようなになるのか。

事務局：

- ・位置、規模については伊藤先生からのご提案であるが、狭いと感じている。現在の在来線のバス切符売場の規模から想定して描いている。

部会員：

- ・階段下の空間も使えば、広くなるのではないか。

事務局：

- ・それは可能だと思われる。

部会長：

- ・バス切符売場と観光案内所をまとめてはどうか。今も離れた箇所であり、お客さんが困惑するケースがある。
- ・ATM コーナーがあると便利なので、この図面のバス切符売場あたりにつくってはどうか。JA の ATM も現在の交番前から移動させてはどうか。

部会員：

- ・駐車場が現状何台止められて、複層化すると何台止められるようになるのか教えてほしい。

事務局：

- ・現在は、駅前駐車場と西口駐車場合わせて 214 台止められる。
- ・将来は平面駐車場の場合で 196 台の計画である。複層化した場合の台数はまだ検討できていないが、現状以上は必要であろうという認識はある。

事務局：

- ・複層化すると昇降スロープ等も必要となるので、仮に 400 台程度を目標にするのであれば、3～4 階建て程度の建物が必要になると思われる。

部会員：

- ・越前加賀展示館で加賀の方まで紹介する意図は何か。

事務局：

- ・市長は、嶺北北部、加賀エリアまで含めて観光客や地域住民に PR していきたいと考えている。
- ・越前加賀インバウンド推進機構にて他地域との連携を進めているので、その一貫として進めれば効果的かと思う。

部会員：

- ・そうであるならば、加賀温泉駅などにも越前、あわらの PR を行っていただきたい。

事務局：

- ・お土産等もあわら市に限定しない意向がある。ハピリンの福福館のように県内の逸品が並ぶイメージである。

部会長：

- ・駐車場のピンク塗り箇所は、複層化部分を示しているという認識でよいか。

事務局：

- ・そのとおりである。ただし、複層化の規模についてはほとんど議論できていない。

部会長：

- ・土日のイベントで訪れると、止められない現状がある。そのため複層化して台数を増やすのがよいと思われる。

事務局：

- ・ロータリーを整備する期間は現在の駐車場が無くなり、新しい駐車場も無い状況なので、駅前に駐車場が無くなってしまいう問題がある。どこかで仮駐車場の確保が必要となるかもしれない。

部会長：

- ・PFI でどこまで任せるか。

事務局：

- ・PFI の募集をかけても、民間が手を上げる可能性は低い。駐車場は収益事業なので可能性はある。
- ・現状では 100%PFI でいくと断言することはできず、6 月議会でその確認を取りたいと考えている。
- ・天米先生からは、PFI を行う場合に対象エリアが広域であるほど民間のアイデアを入れ

やすいため有効であるというアドバイスをもらっている。

部会長：

- ・PFI でいくのか、市民力でいくのか決定していく必要がある。市民力でいく方ができることが限定されるように思う。
- ・ディベロッパーへのサウンディング調査は可能か。

事務局：

- ・現在、伊藤先生の方でサウンディング調査を行っているが、今回のケースでは厳しいという意見が多いようである。
- ・市長はどちらかというところ「市民力で」というように考えている。

事務局：

- ・資料に掲載している新高岡駅市営駐車場では、新幹線利用客の駐車代割引サービスがある。(駅利用率を上げるため。)
- ・あわら市についても、割引サービスなどは既存の規則に縛られることなく、柔軟に対応していきたいと考えている。

部会長：

- ・複層化は、台数確保のために絶対に必要だと思う。

部会員：

- ・夜にここ(賑わい空間)で過ごすイメージができない。
- ・終電で帰って来たときにがらんとしている。
- ・福井駅には暇つぶしのための場所がある。あわらにおいても、そういった場所があれば利用者が増えると思う。
- ・ネット環境のあるカフェや、帰りに一杯お酒が飲める場所があるとよいと思う。

部会長：

- ・地元の人はおそらく、現状案の駐車場に車を停めて、そこから賑わい空間の方に歩いて行かないだろう。そうなった場合に採算が取れないのではないかと。店舗を作っても、経営していければ元も子もない。役所としては、賑わい空間を整備することで商店街がより廃れてしまうことがないように、賑わい空間の店舗を減らし、商店街を整備していくようにした経緯がある。
- ・行政施設である賑わい空間内の店舗で売り上げを出して継続していくことと、商店街の存続の関係には非常に難しい問題がある。

部会員：

- ・前回の図面にあった店舗 A、B、C も夜の営業はできないということか。

事務局：

- ・そういうわけではない。市長も、深夜に駅前に入れる店がないことは憂いている。駅利用者にとっては、そういった施設は駅に近い方が都合がよいため、賑わい空間内の深夜対応店舗のニーズはあるように思う。

部会員：

- ・前回の図面にあった店舗 A、B、C が固定的な店舗である必要はないと感じる。キッチンカーや屋台などの仮設的店舗でもよいと思う。給排水設備のみ用意しておくような仕組みもよい。商店街側のリノベーション等のでこ入れも重要であるが、そこでの事業者等

を見つけるには苦労するのではないかと。商店街の後継者がおらず、年齢層が高くなっていく中で、あと5年で商店街を変えていくことは難しいように感じる。

- ・賑わい空間内に飲食店や物販、イベント等ができるシステムを考えていくのがよいと思う。
- ・商店街側もお客さんを呼びたいが、その力が弱まっているのは事実である。賑わい空間の整備により、商店街も奮起し、相乗効果が生まれるかもしれない。

部会長：

- ・屋外屋根スペースに、あらかじめ給排水設備を設ければ、イベントの度に都度工事をする必要がなくなり経済的にもメリットがある。

部会員：

- ・屋外屋根スペースも屋内空間も、イベントのイメージが湧きづらい。

事務局：

- ・屋内は修学旅行客の待合スペースなどをイメージしている。その他、具体的な想定まではできていないが、色々な催事等が可能だと考えている。

部会員：

- ・イベント等の頻度を考えると、賑わい空間は普段は駐車場にして、イベント時のみ駐車場を封鎖する方が有効に使えるのではないかと。賑わい空間が普段がらんとしてしまうと思う。

部会長：

- ・賑わい空間を駐車場にすることは難しいのか。

事務局：

- ・警察協議中で、返事はまだもらっていない。ただし、賑わい空間をロータリーにしようとするのであれば、車の軌道等からエリア全体を使う必要があり現実的では無い。また、歩道と車の乗り入れの交錯の危険性についての指摘や、キッチンカーなどが入る場合の交通整理員配置の必要性も警察から言われている。
- ・平日はがらんとした空間になると思うが、市長は、自由に使える空間であることをアピールすることが大切だという考えである。

部会員：

- ・(どこかは思い出せないが、) 普段は駐車場で、有事の際に広場として使用している事例がある。

部会員：

- ・大野市役所の駐車場では、駐車場に給排水が引いてあるため、催事等の際にテントを並べて出店することができる。

部会員：

- ・歩道と広場の間に無理に仕切りを作らず、(法律上のラインはあるが、) 見かけ上、歩道も広場も一体と見えるようにしてはどうか。

事務局：

- ・歩道と車道は、同一の設えで色が異なる程度で分けたいと考えている。

部会員：

- ・皆さんには、賑わい空間を本当に駐車場にしまってよいかということを知りたい。

駅前に賑わいが欲しいということから計画が進んできたはずである。

部会長：

- ・地元の人を目線でいくとどうしても駐車場が欲しいという意見も出てくる。
- ・越前加賀展示館が2階に計画されているが、2階へ人を導くということは非常に難しいことである。一度地上に降りて、わざわざ2階へ行く人は少ないだろう。階段の途中に展示館があり、そこからさらに地上に降りる階段があるのであれば、まだ可能性はある。

部会員：

- ・人が駅に来るのは電車あるいはバスに乗るためである。賑わいのために駅に行くというのに疑問がある。
- ・また、商店街が夜遅くまで賑わっていることを商店街の人たちはどう思うのか疑問である。

部会員：

- ・賑わい空間ががらんとするのであれば、商店街へのアクセスを考慮して、夜だけでも駐車場にして欲しい。

部会員：

- ・都会であれば広場は有効であるが、あわら市でどうなるかということを考えるべきである。

部会員：

- ・2ロータリーでの検討時期もあったが、駅前に賑わいが欲しいという声があり、今のような方針となった経緯がある。

事務局：

- ・一度駐車場にしてしまえば、駐車場としての利用に限定されてしまう可能性が高い。

事務局：

- ・市長協議の中で、平常時駐車場利用 + イベント時広場利用の提案をしたが却下となった。市としては、賑わい空間は駐車場ではなく、常に自由に使える空間であるべきだという結論に至った。

事務局：

- ・普段、賑わい空間ががらんとしていれば、皆が駐車場にすればよいのにと感じるだろうが、皆がそう思わないような設えや仕組みを考えて行くことが重要である。

部会員：

- ・以前に、(利用者任せな)多目的スペースは極力作らない方がよいと言われたことがあり不安がある。

部会員：

- ・ハピリンは定期的にイベントを打っている上、イベントが無くても店舗等があることで、人が休憩したりして、がらんとはしていない。

部会員：

- ・自由通路から越前加賀展示館へ直接動線を延ばして行くことは可能か。
(自由通路からエスカレーターで2階の越前加賀展示館へ行き、そこからまたエスカレーターで1階へ降りるといった動線計画)

事務局：

- ・自由通路の階段、エスカレーターは道路扱いなので、地面まで延ばす必要がある。

部会員：

- ・1階のホール部分に展示されていれば、気軽に見ていくことはできると思う。

事務局：

- ・市長へも越前加賀展示館を2階につくることの懸念事項を伝えたが、2階にきちんと整備するという話であった。
- ・立山黒部ジオパークを視察した際には、それほど賑わっているような印象ではなかった。
- ・そういった展示をすることはよいことだとは思いますが、優先順位はもっと低くして然るべきではないか。

部会員：

- ・前回までは2階に何の機能を想定していたか。

部会長：

- ・観光協会の事務所機能などがあつた。事務所であれば2階でよいが、集客を2階に配置するのは無理がある。

事務局：

- ・越前加賀展示館については、2階につくることに疑問があるというのが部会員の皆さんの意見であると認識した。

部会員：

- ・商工フェスタ等のイベントを駅前で行うことを想定すると、車での来場者が困らないよう駐車場の複層化はお願いしたい。

事務局：

- ・それは認識している。どれくらいの人数が集まるのかを明らかにして、規模を設定していきたい。

部会員：

- ・ロータリーから在来線駅舎まで、雨にぬれずに行けるように屋根の計画をお願いしたい。

部会員：

- ・待合等にも利用できるシンボルがあるとよい。

部会長：

- ・aキューブの利活用検討の中で、aキューブを店舗として利用するには大掛かりな工事が発生するようである。
- ・aキューブを店舗等に改装した場合、本来持っていた多機能性が損なわれる。賑わい空間が完成する前にaキューブの改装を始めて多機能性がなくなることの心配がある。
- ・前回の図面からキッズスペースが無くなっているが、aキューブの一つがその機能を担えるように観光商工課と協議している。
- ・観光案内所が道路側（南側）に対し開いているのは意図的なものか。

事務局：

- ・観光案内所に関しては、土地所有者の問題で在来線駅舎側に寄せられないと聞いているため、西側に寄せて計画している。その上で、まとまったスペースを確保し、さらに周辺に対して開いていくような意図で、本日の図面のような配置でお示した。

事務局：

- ・屋根を在来線駅舎とつなげることは可能か。

事務局：

- ・協議によるとは思うが、基本的には建物同士の縁は切っておく必要がある。

事務局：

- ・観光案内所とその他の屋根をつなげていることは建築基準法上可能なことか。

事務局：

- ・今後敷地境界がどこにくるのか次第であるが、1敷地1建物の原則がある。
今回のケースで適応可能かは不明であるが、一団地認定などの緩和制度もある。

事務局：

- ・賑わい空間エリアは、現在は JR の土地であるが、今後買収し、市の土地となる予定である。

部会長：

- ・近日、駅舎内のコンビニのリニューアルが完了する。前回までは、土地活用検討街区内にコンビニを計画していたが、土地活用検討街区の計画が後回しとなるのであれば、1階レベルでのコンビニの可能性はなくなるのか。

事務局：

- ・店舗 A がコンビニとなる可能性はあると思う。
- ・新幹線駅舎の改札前にも店舗は計画されているが、内容は未定である。
- ・各店舗の性格を変えておくことも重要であると思う。

部会長：

- ・駅前に祭りの山車の展示室が必要だと感じている（図面には記載済み）
- ・普段は飾ってあり、祭りの前になると作業の様子が見れることは、観光客にとっても市民にとってもよいものであると認識している。

事務局：

- ・山車は何台あるのか。

部会長：

- ・地域ごとに、計3台ある。
- ・駅前にはこの地域の1台を展示したい。
- ・これがこの地域の文化であるのに、現状は金津神社の車庫の中にあり、誰にも見られないのはもったいない。
- ・東京で山車がディスプレイされている様子を見たが、本来、地方ほどこういったことを積極的に発信していくべきではないか。

部会員：

- ・祭りの準備の様子等を発信していくことはよいことだと思う。祭りの日だけでなく、プロセスまで見えるようにするのはよい。
- ・2階に展示館をつくることには疑問がある。
- ・土地活用検討街区が変わらないと、駅前が変わったという印象にならないのではないか。その際、今の配置では観光案内所がまちを分断し兼ねないので、そうならないような設えが必要になる。
- ・弱気な発言もあったが、屋外屋根スペースは（駐車場でなく）広場としてキープできる

よう、何とか頑張ってもらいたい。

- ・店舗Aがコンビニになる可能性に関しても、ややもったいないと感じる。カフェというよりは、バルのようなイメージで、夜も賑わいが感じられるようにしたらよいと思う。
- ・特に広場で何かしているわけではないが、テーブルを出して人が滞在しているというようなことが大切だと思う。
- ・内部空間については、金津創作の森の展示の一部やインスタレーションを行ってもよいと思う。
- ・内部空間から、屋外屋根スペースへのつながり方も考えて、設えを検討してもらいたい。

事務局：

- ・本日の会議のまとめとして下記のように認識している。
 - ・屋外屋根スペースや内部の自由空間の理解はいただけたが、普段閑散とした雰囲気を感じられないよう、設えや仕組みの継続検討が必要である。
 - ・使い方イメージについては、パターン化し、次回皆様にお見せする。
 - ・越前加賀展示館は2階にあることに関して疑問があるので、1階でそういった展示ができるコーナーを計画したり、先ほどの部会員の意見にあったように金津創作の森の展示やインスタレーションを展開する等が必要である。
 - ・展示室(45㎡)についても、祭りの山車展示や、準備風景を見せられるようにすることで地域の誇りとなるとともに、観光客も楽しめる仕掛けとなる。
 - ・店舗Aは昼も夜も地域のニーズを満たすような機能が必要である。
 - ・駐車所の拡幅については複層化を検討する。
 - ・aキューブをコスト的にも構造的にも、チャレンジショップ等にリフォームしていくことは難しそうである。aキューブには、キッズスペースなど、これまで土地活用検討街区で描いてきたことを補填する役割を検討していきたい。
 - ・駅前が変わったという印象を生むために、土地活用検討街区のリニューアルは大切であるので、引き続き庁内で検討していきたい。
 - ・バス切符売場、レンタカー受付については、観光案内所と合わせた方が利用勝手がよい。
 - ・シンボル設置に関しても継続検討する。

部会長：

- ・エスカレーターと階段の並びはこのとおりになるのか。
- ・室内空間を見下ろす際に、階段であれば立ち止まって見ていられるので、逆の方がよい。

事務局：

- ・エスカレーターは昇りのみである。
- ・どこの事例を見てもこの並び順である。

(2)今後の予定について

事務局：

- ・4/25(金) 市長協議(パース、事業費等の検討)
- ・5/8(火) 議会説明(まちづくりプランの進捗報告)
- ・5/28(月) 議会協議(まちづくりプランの協議)

・5月下旬 芦原温泉駅周辺賑わい創出協議会（まちづくりプランの最終協議 プラン策
定）

・6月～7月 あわら市地域ブランド戦略会議（まちづくりプランの提言）

まちづくりデザイン部会は、5/8～5/28で随時行う予定。

【次回開催日時】

・（未定）